

リハビリテーションの広がり

リハビリテーション科医長 野々垣 学

病院で仕事をしていて、「はじめまして、リハビリ科の野々垣と申します。」と挨拶をすることが多いのですが、私が新人の頃は、リハビリ科に医者はいないと考える方が多く、患者さまから理学療法士と間違えられることもしょっちゅうでした。最近では、当科に医師、理学療法士だけでなく作業療法士、言語聴覚士も加わりました。私たちスタッフの間では、理学療法士等の名称が長くて呼びづらいため、PT(理学療法士)、OT(作業療法士)、ST(言語聴覚士)という英語の略語を使います。患者さまには、リハビリの各療法士の違いから説明するところから始まります(各療法士の違いについては後ほどご説明します)。

当院では今から9年前の平成8年に、理学診療科からリハビリテーション科に名称が変更になりました。2年前には新病院が完成し、理学療法に加え、作業療法が新たに設けられ、昨年からは言語聴覚療法がスタートしました。

5年前、テレビドラマの「ビューティフルライフ」では車いすに乗った常盤貴子さんと木村拓哉さんの共演が話題となり、以降、障害を持った方のことやリハビリが比較的注目されるようになりました。最近では「1リットルの涙」といったところでしょうか。テレビの影響とはいえませんが、介護の分野など、リハビリが必要とされるようになってきた社会的な流れもあり、リハビリの各療法士の人数は、全国的に見てここ5年で2倍以上に増えています。



また、これらの療法を行う療法士の養成校も、15年前は神奈川県内に1校でしたが、現在では5校に増えました。茅ヶ崎市市内にも専門学校が新設されています。卒業後は、病院という医療のリハビリ分野だけでなく、介護老人保健施設や通所リハビリテーション施設(デイケア)といった福祉のリハビリ分野でも活躍できるようになってきました。

そこで今回は、理学療法、作業療法、言語聴覚療法の違いについてご説明します。各療法の違いを最も簡単にお話しするならば、理学療法が足、作業療法が手、言語聴覚療法が口や耳を担当することとなるのですが、各療法には、もう少し深い意味があります。

理学療法(Physical Therapy; PT)は、主に体の動きを取り戻すための動作訓練になります。たとえば、歩行練習や立ち上がりの練習、又は低下した筋力を回復させるための運動、関節の動きを良くする訓練を実施しています。またこれらは、泡のでる浴槽やホットパックといった暖める器具を用いて関節を柔らかくしてから実施することもあります。肩や肘など上肢に障害がある方も、理学療法の対象となります。ところで、患者さまからしばしば「マッサージをし

てもらえませんか？」という問い合わせを受けることがあります。マッサージは、堅い筋肉を柔らかくするためのもので、確かに筋肉の緊張をやわらげるのに効果があることも多いのですが、理学療法士とマッサージ師では、病気や障害に対するアプローチが異なります。当院の理学療法は、身体機能の障害に対して、いかに動作を結びつけるかを考えてリハビリ医がリハビリの処方を行うため、マッサージのみの治療は実施していません。

作業療法(Occupational Therapy; OT)は、作業という言葉のイメージから細かな作業のためのリハビリテーションと考えられがちです。しかし、作業療法が対象としている「作業」は、とても幅が広く、毎日の生活で行っている着替え、トイレ、洗面等の身の回りの動作や、家事、仕事、趣味活動も含まれます。病気やけがによってこれらの「作業」が困難になった方に対して、訓練を行うことで失われた機能の回復や代償獲得を目指すものが作業療法です。つまり、手が不自由になった方だけでなく、足が不自由になった方の着替え動作訓練や入浴動作訓練等も作業療法の対象となります。また、右の写真のように手工芸などを通じて、手先の器用さや、手指の力を取り戻す訓練も行います。

言語聴覚療法(Speech Therapy; ST)とは、言葉が思うように出てこない、聞いた言葉の意味がわからないといった症状を呈する失語症、こうあん構音障害(呂律が回らない)、ろれつ滑舌かつぜつが悪い)等の言葉の障害に対して訓練を行っています。その他に、飲み込みの障害も対象となります。

当院の各療法は、入院患者さまのリハビリが中心となっており、患者さまの症状にあわせて、

リハビリ医の判断のもと各療法を開始しています。

2年前に回復期リハビリテーション病棟ができたことにより、リハビリテーションの充実によりいっそうの力を入れてきました。まだ十分なスタッフ数に達したとはいえない状況ですが、各療法士ともいかに質の高い治療ができるか、医師と話し合いを積極的に行って、常に患者さまの症状改善について考えています。しかし、病気を治すのは患者さま自身でもあります。少しでも良い状態を取り戻そうと、療法士と力を合わせて治療に望んでいただきたいと思います。厳しいトレーニングを強いるリハビリではなく、楽しい雰囲気のもと、自然治癒力の力も借り、最良の状態に身体機能を高められるようにリハビリを行っています。

何か、身体の動きのことでお困りのことがあれば、まずは、リハビリ科医師までご相談ください。

< 作業療法にて >



左：アンデルセン手芸で作られたかご
手前：革細工で作られた鉛筆立て
右：折り紙細工で作られた鶴